

第5章 地域と連携した取り組み

第1節 人と川との関わりについて

庄内川は、長い歴史のなかで私たちの暮らしに豊かな自然の恵みをもたらすとともに、近年の都市化が進む沿川地域にとって、自然のうるおいと安らぎを与えてくれる貴重なオープンスペースともなっている反面、幾多の洪水氾濫を繰り返し、私たちの暮らしを脅かし、多大な被害も与えてきた。しかし、近年は生活様式等の変化に伴い、人と川との関係が疎遠になりつつあるため、地域とともに歴史を刻んできた庄内川が、安全で自然豊かであり、親しみのもてる川となるよう、地域社会と一体となった川づくりを進めていくことが必要である。このため、流域住民、市民団体、企業、自治体、河川管理者等が日頃から情報の共有化や交流を進め、互いに連携し、信頼関係を構築するとともに、協働による川づくりを展開する。

1 地域と進める川づくり

(1) 地域と一体となった河川管理の推進

庄内川沿川に暮らす地域住民が庄内川に誇りや親しみを持ち、より良い河川環境を実現していくため、地域住民等と協働によるクリーン大作戦等の河川清掃活動や、地域住民等の自主的な参画によるアダプト*活動を進め、地域と一体となったより良い河川管理の推進を図る。



写真 5.1.1 クリーン大作戦

※：アダプト…河川敷や道路等の公共スペースの一定区間に対し、行政と合意形成した（行政に任せられた）住民・団体・企業等が、その区間の清掃美化等の管理の一部を受け持つシステム

(2) 地域活動支援

多種多様な市民団体等が積極的に活動している庄内川において、河川環境の保全・創出、情報交換と交流、行政や企業との連携・協働等を目的として平成12年1月に発足した土岐川・庄内川流域ネットワークや、行政と流域住民や市民団体との連携活動を円滑に実施するための役割を担うことを目的として平成18年2月に土岐川・庄内川サポートセンターを設立した。また、ボランティアで川に関する活動を指導・案内する川ナビ、土岐川観察館等と連携し、土岐川庄内川交流会、志段味^{しだみ}ビオトープ整備等の河川に関する環境学習活動を始めとする地域住民や市民団体等の地域活動や社会貢献活動、交流の場づくり等の支援を図る。

緊急時の防災拠点として整備されている水防センター等については、平常時には一般開放する等、施設の有効活用を図るとともに、住民活動・交流の拠点や河川に関する講演会等、地域コミュニケーションや河川に関する学習等の拠点として有効活用を図る。



写真 5.1.2 土岐川庄内川流域
ネットワークの活動状況

市民団体及び個人が集い、情報交換や交流を進めてネットワークでの活動を支援



写真 5.1.3 地域住民等による自主活動

市民ができることを具体的に提案し、実践を目的に集まった交流会での自主プロジェクトを支援



写真 5.1.4 川に関する指導、案内、
啓発活動

庄内川に関する自然観察会や環境学習会を企画し、指導をボランティアで実施



写真 5.1.5 朝市の開催

人が賑わう拠点として地元行政、市民が参画した朝市を水防センターで開催し、市民間の交流の場として活用

2 社会的な課題への支援

様々な事情により庄内川の高水敷に住むことを余儀なくされているホームレスについては、洪水時等に非常に危険な状況となることから、自治体や地域住民、市民支援団体、企業等と連携、調整し、人権が保障されるよう自立支援の推進を図る他、河川巡視等により日頃から状況の把握に努める。



図 5.1.1 行政、市民、支援団体、企業等と連携し自立支援の推進

3 健全な水循環系の構築

健全な水循環系の構築に向け、森林、農地、河川、地下水、水道、下水道、海等の様々な分野を総合的に捉え、庄内川流域における水循環系の現状と課題、問題点等を認識するとともに、課題の解決に向け関係機関が連携、協力して、水循環系に関する調査、研究等に取り組む。

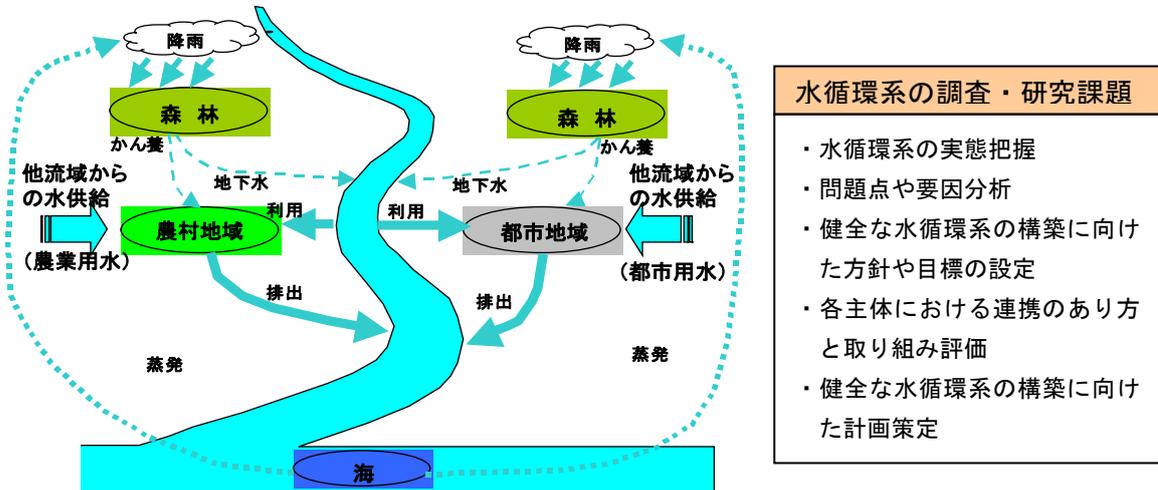


図 5.1.2 庄内川の水循環系のイメージ

4 流域における対策

庄内川流域は、昭和 30 年代より流域の土地開発が進み、丘陵地や里山、河川沿いの氾濫域、段丘面上に広がる農地まで大規模な宅地開発等が進行したため、流域が有していた保水機能が失われ、市街地の内水被害を始めとして流域全体が洪水に対して脆弱になっている。このため、流域全体に降った雨を流域や河川等で互いに分担しあい、洪水をできるだけ庄内川に流出しないようにすることが必要であり、関係機関等と連携、調整して、問題提起を図るとともに、流域住民への啓発活動や流域からの流出を抑制する施策等を進め、災害に強いまちづくりを推進する。

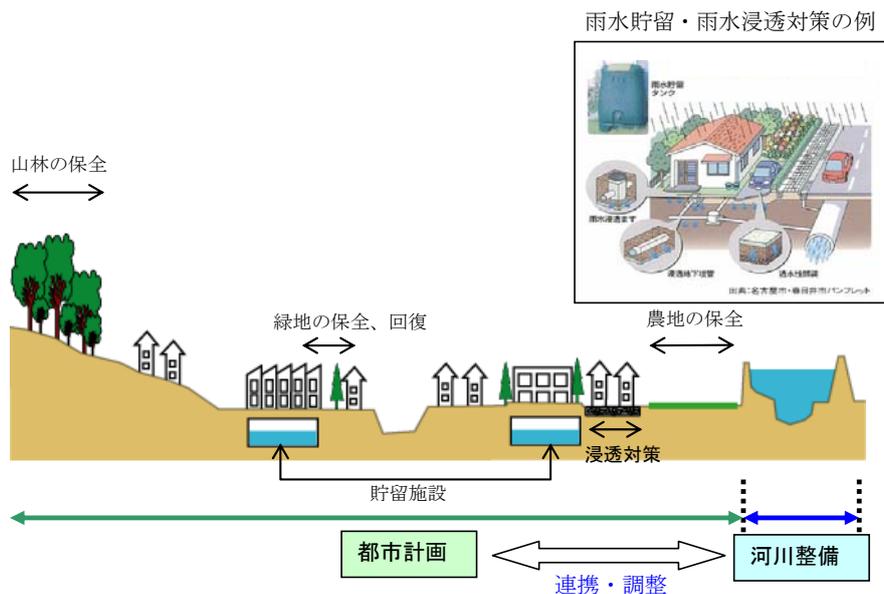


図 5.1.3 流域における洪水対策との連携のイメージ

第2節 庄内川の川づくりの進め方

庄内川のより良い川づくりを進めるためには、地域住民や関係機関等が一体となって取り組んでいくことが重要である。このため、庄内川が育んできた歴史や文化、自然環境、生活環境等を踏まえ、庄内川の再認識と新しい発見を進め、連携を通じて人と人、地域と地域による新たな連携を育みながら、地域の活力が引き出されるような川づくりを推進する。

1 地域とのコミュニケーション

より良い川づくりを進めるためには、地域住民が庄内川に対し魅力を感じ、期待、関心等を持ってもらうことが重要である。このため、ホームページや庄内川・土岐川だより、こんにちは等の広報誌、パンフレット等により積極的に庄内川に関する情報発信を行うとともに、りばーびあ庄内川、なごや夏まつり等のイベントや商業施設等を利用したオープンハウス等により地域との情報の共有化を進めていく。

また、庄内川を活用した総合的な学習や、職員が有する知見等を地域社会に還元し地域との交流を深める出前講師、地域活動等への支援等を通じて、地域との両方向のコミュニケーションの向上を図る。



図 5.2.1 庄内川河川事務所のホームページ



図 5.2.2 広報誌「庄内川土岐川だより」



写真 5.2.1 オープンハウスの開催

2 住民参画による川づくりの推進

河川整備計画を具体化するための事業実施に際しては、事業の進め方や住民の関わりを予め明確にし、情報を共有するとともに、事業計画の初期段階から個々のニーズに合わせた様々な住民参加の機会を設ける等、住民が参加できる具体的な川づくりを推進する。

河川管理においても、沿川住民（河川愛護モニター）とともに河川状況を把握する等、住民参画を推進していく。

また、川づくりは、国や県、市町等、様々な行政分野に関連していることや、行政による支援や行政と住民との連携が重要であることから、関係する行政間で密に連絡を取り、情報を共有しながら、効果的かつ効率的な川づくりを推進する。

3 国際的な交流や情報交換等の促進

庄内川流域は、渇水に対して脆弱な地域であり、これまでに生活水準の向上、生産活動の拡大等による水需要の増大、特に高度成長時代の急激な水需要の増大に対応するため、木曾川水系の豊富な水量に依存する等の各種施策を講じることにより、現在の社会基盤を築いてきた。このため、将来にわたって水の持続的な利用が可能となるよう、酸性雨や地球温暖化等の地球環境の変化等、水資源に関する問題に対応するため、国際的な交流や情報交換等を進めていくことが必要である。また、地球規模の気候変動が騒がれるなか、米国南部ニューオリンズで起こったハリケーン・カトリーナによる水害の教訓等は、広域地盤沈下が進行する海拔ゼロメートル地帯等の地域特性が類似した濃尾平野に位置する庄内川の危機管理を考えるうえで重要な情報であり、積極的に国際的な交流や情報交換等を進めていく必要がある。

このため、水と衛生の問題、水不足、水に関連した自然災害による被害の増大、水質の悪化と淡水生態系の危機、地球温暖化問題等、様々な地球上の水問題の解決に向け、調査研究を進めるとともに、国際的な交流や情報交換等の促進を図る。